

## 読者のみなさま

今回、『急性膵炎診療ガイドライン 2021（第5版）』を発刊することができました。

また、読者のみなさまに、より理解しやすい形で診療ガイドラインの作成に臨み、本邦で初めて、“やさしい解説”を取り入れました。また、過去の版に掲載されている資料などは、参考資料として web に掲載しました。QR コードをスマートフォンなどで読み取って閲覧し、本文の解説などの理解にお役立ていただけると幸いです。

ただ、序文の重症急性膵炎の難病指定についての記載年度に間違いがあり、ご迷惑をお掛けしましたことを心からお詫び申し上げます。第1刷（2021年12月20日発行）につき下記のように訂正いたします。

急性膵炎の日本全国疫学調査は定期的に行われ、重症膵炎の致命率は、1982～86年では30%、1998年には21%と高く、1991年からは国の指定難病として扱われました。

その後、医療行為の進歩やガイドラインの普及により、2014年には難病指定から外れました。ガイドラインはその後も各所に工夫を加え、2015年に第4版を出版し、広く急性膵炎診療の最新の医療を推奨し、今回の第5版に臨みました。

何とぞご理解いただき、本書を日常の診療に用いていただけることを願っております。

2021年12月28日

高田忠敬 急性膵炎診療ガイドライン 2021（第5版）改訂出版責任者

## 記

頁	訂正箇所	誤	正
iii	第5版の序 8行目	<u>2016</u> 年には全国調査結果をもとに難治性疾患から脱出することができました。	<b>2014</b> 年には全国調査結果をもとに難治性疾患から脱出することができました。

以上